

「岩手医科大学歯学部における東日本大震災時の活動報告」 記録集発刊にあたって

岩手医科大学歯学部長
岩手医科大学歯学会会長
三浦 廣行

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分に発生した東日本大震災は、マグニチュード 9.0 の巨大地震とその後の巨大津波、あつてはならない原発事故によって、我が国の災害史上、未曾有の被害を及ぼした。

犠牲になられた方々に対し深く哀悼の意を表すとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

人はたいていのことは忘れてしまい、覚えているのは本当に必要なことか忘れてもいいような不必要なことだと云われている。しかし、忘れようにも忘れられないこともある。だからこそ、嫌な、悲しい出来事があったら「それがあったからこそ、このようになれた、このように変わった」とポジティブに考えることである。起きた出来事は、その後のあり方で我々に多くの生きる力を与えてくれる源となるものと思う。

そして生きてここにいるのは、選ばれてこの世に生を授かり、今現在ここに生かされているからなのである。事態がすぐに好転することはないだろうが、人間は、どんなに過酷な試練にあっても、それを乗り越え、未来を切り開いていく力があるものと信ずる。かつて、多くの先人達が見せてくれたように。

生かされた我々は、「一日一生」：一日が一生と思いつつ生きること、そして、自分にできることに精一杯取り組んでゆくことである。

本記録には、本学教職員の発災直後からの貴重な体験が記されている。この記録をまとめ、読み返すことで、この度の苦境に出逢った意味がわかってくるものと考えます。

おわりに、犠牲になられた方々への鎮魂を念い、被災地の一日も早い復旧・復興への更なる支援に努めたい。